

2011年度薬膳の旅 ～河南研修旅行記～ 【連載 4回目(全4回)】

2011年5月29日(日)から6月4日(土)までの7日間に行われた、医聖と尊称されている張仲景の故郷、河南省への研修旅行。各参加者から募った研修旅行レポートを連載にて掲載しております。



世界遺産 龍門石窟の前にて

この両岸の山に仏像を削るのが始まったのは北魏の時代(紀元四九三～)洛陽に都が移された頃で宋の時代まで四〇〇年間絶えることなく仏像などが彫られ、大は十数

三日月 中国河南省の空気にも少しづつ馴染んで、今日は世界遺産の龍門石窟の見学です。(敦煌の莫高窟、山西省の雲岡石窟と共に中国三大石窟)小麦畑や雑木林の風景が延々と続いて石窟の入場口に到着したのは南陽のホテルを出て二時間後、そこから黄色い電気自動車で石窟の入り口の龍門へ。ここからは徒歩です。先ず目に入ったのは大きな門とゆつたり流れる黄色い川でした。この伊川は北に流れて黄河に合流しますが東岸に香山、西岸に龍門山が向かい合っており、天然の門のように見えるこの地は古代より伊闕と呼ばれる重要な場所だったそうです。

中国という国は万里の長城もそうですが、長期間続けて偉大な物を作り上げるすごい国だと改めて感じしてしまいました。最初に拝顔したのは唐の高宗時代に開削された潜溪寺の阿彌陀様、豊満な優しい表情に親しみを覚えました。日本の仏像は半眼で近寄りたたい高貴なお姿が多いように思います。紀元五〇〇～五二三 二十三年に造営された賓陽中洞、ドーム形の天井の奥には大変スマートなお姿で穏やかな細面のお釈迦様がいらっしゃいました。



小は十cm位までその数十万余体を数えるというのですから驚きです。

石段をやっと登って龍門石窟最大の奉先寺の大仏様にたどり着きました。高さ十七、四m、頭四m、耳長一、九mという大きさもさることながら中央に座して豊かなお顔に涼やかな目、威風堂々のお姿を見上げると優しく私を見つめて下さっていました。何処から見てもそのように見える彫り方なのだそうです。脇侍二体、文殊と普賢菩薩、護

高さ十七、四m、頭四m、耳長一、九mという大きさもさることながら中央に座して豊かなお顔に涼やかな目、威風堂々のお姿を見上げると優しく私を見つめて下さっていました。何処から見てもそのように見える彫り方なのだそうです。脇侍二体、文殊と普賢菩薩、護

本草薬膳学院創立10周年記念行事

参加申し込み受付中

2012年6月24日(日) 時間:9:30~16:30 日本女子大学桜楓2号館 4階

まだ、間に合います!

すでにご案内を配布しておりますが、ご講演頂く諸先生方を初め、各方面でご活躍されている方々を来賓としてお迎えいたします。また、ランチパーティーや交流会など様々な企画を立てております。是非、交流の場としてご活用ください。お誘いあわせの上、皆様のご参加を心よりお待ちしております!

参加費 全日:10,000円/半日:8,000円(※) (※ 全日、半日共に記念誌費・お土産を含む価格です。)

薬膳の今とこれから 2012年6月24日 場所:日本女子大学桜楓2号館 本草薬膳学院 創立10周年記念行事

- 申込書は、下記特設サイトにてダウンロード出来ます。必要事項をご記入の上、FAX(03-5294-0190)送信、あるいは学院まで直接ご提出をお願い致します。
■ 参加者から前日、当日の会場スタッフとして、ボランティアスタッフを募集しております。会場設営などのお手伝いをさせていただき予定となっております。
■ その他質問等は、下記連絡先までお問い合わせください。

本草薬膳学院創立10周年記念行事実行委員会 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-18 アーバンスクエア神田ビル8F 本草薬膳学院内 TEL:03-3526-6039 E-Mail: haiyang@honzou.jp

本草薬膳学院 HP 内に「創立10周年記念行事」特設サイト OPEN!

10周年記念行事に関する最新情報を随時お知らせしていきます。

http://www.honzou.jp/10th/



2011年度「国際中醫師」資格認定試験

合格おめでとうございます!

「国際中醫師」資格認定試験 合格者

(50音順・敬称略)

- 青山 洋子(長野県) 小見山 千佳(三重県) 西原 恵子(東京都)
稲垣 雄史(神奈川県) 新保 順子(東京都) 山田 教湖(愛知県)
川端 咲子(滋賀県) 田中 ひろみ(東京都) 吉開 有紀(東京都)
川村 紗綾子(神奈川県) 永井 香澄(宮城県)

以上11名



法天王と金剛力士を従えた七体一組の像造は唐代の仏教彫刻の代表作と聞いて納得です。西岸の一部しか見ることは出来ませんが、龍門石窟は仏教文化の芸術表現であると同時に紀元五〇〇年から四〇〇〇年間の各時代の政治、経済、文化がわかる大芸術博物館であるといわれている通りスケールの大きな遺産でした。

昼食は洛陽の代表的な水席料理です。唐の時代から一三〇〇年の歴史のある料理を清の時代から二〇〇〇年続いている、水席料理の映画にも撮られた真不洞飯店でいただきました。

水席料理とは①一番よい水(山奥の湖水)を使う、②スープが多い、③水の流れのように次々料理が出てくるからつけられ、酸っぱい辛味が特徴だそうです。基本は二十四種類の料理が出されます。前菜の後出たのは大きな器に牡丹の花を型どって

種々の食材をきれいに盛りつけテイスティングしてOKしたスープを注いだ「牡丹燕菜」。美しく美味しいのに感動!水の流れのように運ばれて来るお料理に歓声をあげ、写真を撮り、劉先生の説明を聞いて味わいました。



大村 和子 松本 しず子

水席料理の素晴らしさを文字でお伝えするのは難しいことです。是非現地を訪れてご自身の五感で味わっていただきたいと思えます。漢時代に創建されその後何度も建て直され現在に至っているという四万㎡の広大な境内に中国的彩色の建物が沢山、お参りの仕方等教えていただきながら回りました。空海 弘法大師が留学生として過ごしたというこの寺の境内に空海像が設置されていてなお一層親しみを感じた白馬寺でした。